

# ウズベキスタン

Republic of Uzbekistan

	2007年	2008年	2009年
①人口:2,800万人(2010年初)			
②面積:44万8,900k㎡			
③1人当たりGDP:1,176米ドル (2009年)			
④実質GDP成長率(%)	9.5	9.0	8.1
⑤貿易収支(米ドル)	18億9,350万	30億8,050万	24億8,430万
⑥経常収支(米ドル)	16億3,070万	35億6,170万	21億9,820万
⑦外貨準備高(金を含む,米ドル)	51億9,380万	90億7,220万	n.a.
⑧対外債務残高(米ドル)	37億2,530万	37億4,760万	n.a.
⑨為替レート(1米ドルにつき, スム,期中平均,公定レート)	1,263.46	1,319.58	1,465.63

【出所】①②④:国家統計委員会,③:IMF,⑤~⑧:欧州復興開発銀行(EBRD),⑨:ウズベキスタン中央銀行

## ■ 内需喚起策が奏功し、8%成長を達成

ウズベキスタン国家統計委員会の発表によると、2009年の実質GDP成長率は8.1%を達成(目標は8.0%)した。世界経済が大きく落ち込んだ中であって2008年の9.0%に続いて高い成長を維持した。鉱工業生産は前年比9.0%増、農業も5.7%増となっているが、特に固定資本投資は24.8%増、建設は33.1%増の大幅な増加となった。地方における道路インフラの整備や住宅建設の促進などを盛り込んだ「実業部門の企業支援、安定操業確保、輸出潜在力向上に関する措置プログラム」(2008年11月採択)による内需喚起策の成果が表れたものといえよう。

鉱工業部門では燃料に次いで大きなシェアを占める機械・金属加工が17.4%増となった。GMウズベキスタンによる乗用車の生産は年間の目標としていた23万台には届かなかったものの、前年比5.1%増の20万5,011台を組み立て、ついに20万台超えを達成した。市場の縮小を受けロシア向け輸出は大幅に減少した。ロシア側通関統計によると対ウズベキスタン乗用車輸入は2008年の8万2,052台から2009年は3万911台に減少となっている。一方で、これまで納車数カ月待ちが当たり前だった国内市場に輸出分を振り向けた結果、国内販売量は2008年の9万719台から2009年は16万2,240台へと増加した。

軽工業部門では、綿糸の生産量は14万5,500トン(0.7%増)でほぼ前年並みの生産であったが、綿繊維は105万5,300トンにとどまり10.1%の減産となっている。原綿の生産量については、前年とほぼ同量の340万1,900トンであった。

消費者物価上昇率(12月比)は公式統計によるとほぼ前年並みの7.4%となった。食料品は6.3%(前年実績2.7%)、非食料品は3.1%(7.7%)であったが、サービス部門は昨年よりは落ち着いたものの17.3%(27.2%)と2ケタの伸びが続いた。IMFは年平均で14.1%と計算している。

2010年はロシアやカザフスタンなど主要貿易相手国の景気回復、そして綿花や天然ガスといった主要輸出産品の市況も安定的に推移すると予測され、2009年を上回る成長を遂げる見通しである。

## ■ スイスや中国など CIS 域外との貿易が大幅拡大

2009年の貿易(サービスを含む)は、輸出が前年比2.4%増の117億7,130万ドル、輸入は2.7%減の94億3,830万ドルとなり、貿易収支は23億3,300万ドルの黒字となった。

輸出を品目別にみると、最大シェアを占めるエネルギー製品が金額ベースで40%以上の伸びを示し、輸出全体に占める割合は前年の24.7%から34.2%へと拡大した。天然ガスの生産減にもかかわらずロシア向け輸出価格を1,000立方メートル当たり160ドルから305ドルに大幅に引き上げたことなどが背景にある。一方で、機械・設備はロシア向け乗用車の輸出不振が大きく響いて前年の38%程度にまで落ち込み、シェアも7.6%から2.9%にまで低下した。

国別で見ると、ロシアが全体の2割を占める最大の輸出相手国であるが、この3年でスイスが著しい伸びを見せている。2006年には3,100万ドルほどだった輸出額が、2009年には15億8,610万ドルへと急増した。ゼロマックスというスイス資本の現地企業による「本社から受注した調査契約」が膨大な輸出増の要因とみられる。2010年第1四半期においても対スイス輸出額は前年同期比で60%近く伸びたが、同社は5月、各種支払いの遅延などが重なり清算されたため、2011年以降は以前の水準に戻っていくものと思われる。

輸入を品目別にみると、全体の半分強を占める機械・設備が前年比5.0%増加した。国産乗用車やトラック、バスなどの生産拡大にともなって部品などの輸入が増加したとみられる。国別ではロシア、中国、韓国の上位3カ国で

表1 ウズベキスタンの主要国別輸出入<通関ベース>  
(単位:100 万ドル, %)

輸出(FOB)				
	2008年		2009年	
	金額	金額	構成比	伸び率
ロシア	1,961.8	2,257.2	19.2	15.1
スイス	1,032.9	1,586.1	13.5	53.6
アフガニスタン	520.3	703.8	6.0	35.3
ウクライナ	970.8	691.1	5.9	△ 28.8
イラン	536.9	538.0	4.6	0.2
カザフスタン	436.4	513.7	4.4	17.7
中国	257.5	489.0	4.2	89.9
トルコ	534.3	406.9	3.5	△ 23.8
タジキスタン	147.4	143.5	1.2	△ 2.6
キルギス	186.6	136.3	1.2	△ 27.0
日本	24.4	15.0	0.1	△ 38.5
輸出総額	11,493.3	11,771.3	100.0	2.4

  

輸入(CIF)				
	2008年		2009年	
	金額	金額	構成比	伸び率
ロシア	2,274.2	2,186.3	23.2	△ 3.9
中国	1,253.5	1,562.4	16.6	24.6
韓国	1,043.7	1,125.8	11.9	7.9
ウクライナ	960.3	835.1	8.8	△ 13.0
カザフスタン	1,220.9	793.5	8.4	△ 35.0
ドイツ	455.1	420.4	4.5	△ 7.6
トルコ	300.0	267.2	2.8	△ 10.9
米国	193.4	221.1	2.3	14.3
ブラジル	147.9	181.6	1.9	22.8
イタリア	84.8	147.8	1.6	74.3
日本	151.9	124.0	1.3	△ 18.4
輸入総額	9,704.0	9,438.3	100.0	△ 2.7

[注] サービスを含む。

[出所] 表2とも、ウズベキスタン国家統計委員会。

50%を占めた。中でも中国が前年比 24.6%伸長したが、これはトルクメニスタンから中国へのガスパイプライン敷設向け資材の輸入によるものとみられる。

2009年の固定資本投資は前年比24.8%増の82億ドルを計上、うち、外国からの投融資の割合は32.4%で前年(25.8%)を大きく上回った。主な案件としてはトルコのミマタシュ・テキスタイルによるアイム・テキスタイルの買収(6,900万ドル)や韓国の大宇テキスタイルによるプハラテックスへの投資(5,250万ドル)、ドイツのマンによる現地企業との合弁トラック工場開設が挙げられる。政府はナボイ自由工業経済区を設置し、外国企業の投資を促している。隣接する国際空港のロジスティクスセンター化も着実に進んでおり、中央アジアにおける物流ハブとしての位置付けも十分に期待できるだろう。

### ■シンポジウムを契機に経済交流活発化

日本側通関統計(通関ベース)によると、2009年の対ウズベキスタン輸出は前年比11.3%増の8,478万ドル、輸入は逆に66.9%減の1億339万ドルであった。

輸出を品目別で見ると、政府開発援助(ODA)による鉄道案件向けの金属製品が減少したことから前年比97.4%減の23万2,000ドルとなった一方で、建設用・鉱山用機

表2 ウズベキスタンの主要品目別輸出入<通関ベース>  
(単位:%)

輸出(FOB)				
品目	2008年		2009年	
	構成比	構成比	構成比	伸び率
エネルギー製品	24.7	34.2	42.2	
サービス	10.4	8.8	△ 14.1	
綿繊維	9.3	8.6	△ 5.1	
食料品	4.5	6.0	39.0	
鉄鋼・非鉄金属	7.0	5.0	△ 27.7	
化学品・プラスチック製品	5.6	5.0	△ 9.1	
機械・設備	7.6	2.9	△ 61.6	
その他	30.9	29.5	△ 2.0	
輸出総額	100.0	100.0	2.4	

  

輸入(CIF)				
品目	2008年		2009年	
	構成比	構成比	構成比	伸び率
機械・設備	52.4	56.5	5.0	
化学品・プラスチック製品	11.6	11.1	△ 7.3	
食料品	8.3	9.0	5.5	
鉄鋼・非鉄金属	7.7	6.3	△ 19.7	
サービス	4.4	4.4	△ 3.3	
エネルギー製品	4.6	3.5	△ 27.5	
その他	11.0	9.2	△ 18.4	
輸入総額	100.0	100.0	△ 2.7	

表3 ウズベキスタンの対内直接投資の推移  
<実行ベース、ネット、フロー>

(単位:100万ドル)

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
対内直接投資総額	192	174	705	711	711

[出所] 欧州復興開発銀行(EBRD)「Transition Report Update 2009」。

械が9倍強の1,736万ドルと大幅に拡大した。これは、アジア開発銀行(ADB)主導の中央アジア地域経済協力(CAREC)関連道路プロジェクト(約14億円)によるカラカルパクスタンなど6カ所の新設工事向け建設機械が58台輸出されたものである。

ウズベキスタンからの輸入では、未加工用金が全体の99%を占めたが、2008年に倍増した額が2009年はほぼ元の水準に戻ったことがそのまま輸入総額の減少に直結した。その他の項目では全体の0.7%を占める綿織物類が前年比84.1%減となった。

2010年4月にガニエフ副首相兼対外経済関係投資貿易相が来日、ウズベキスタンへの投資誘致シンポジウムを東京で開催した。これを契機に日本からの現地来訪者が増加している。中国における人件費高騰による生産拠点見直し機運の高まりに加えて、ロシア・CIS諸国を市場として考える際のものづくりの基盤が比較的整っていることなどがウズベキスタンへの関心を喚起したようだ。5月には、レアメタルの資源探査に関する協定締結や建機の販売サービスを行う現地法人も新たに設立されるなど、着実にビジネス交流が広がり始めている。